2027 年度
新専門医制度　内科領域プログラム
順天堂大学医学部附属浦安病院
内科研修プログラム



順天堂大学医学部附属浦安病院　内科

順天堂大学医学部附属浦安病院
内科専門医研修プログラム

目　次

1.　理念と使命における特性 …… 1
2.　内科専門医研修はどのように行われるのか…… 2
3.　専攻医の到達目標(修得すべき知識・技能・態度など) …… 9
4.　各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得…… 9
5.　学問的姿勢……9
6.　医師に必要な倫理性、社会性 …… 10
7.　施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方…… 10
8.　年次毎の研修計画…… 10
9.　専門研修の評価……11
10. 専門研修プログラム管理委員会…… 12
11. 専攻医の就業環境(労働管理)…… 12
12. 研修プログラムの改善方法…… 13
13. 専攻医修了判定 ……13
14. 専攻医が研修プログラムの修了に向けて行うべきこと…… 13
15. 研修プログラムの施設群…… 13
16. 専攻医の受け入れ数……13
17. Subspecialty領域……14
18. 研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件 …… 14
19. 専門研修指導医 ……15～16
20. 専門研修実績記録システム、マニュアル等…… 16
21. 研修に対するサイトビジット(訪問調査) …… 16
22. 専攻医の採用と修了 ……16
23. 順天堂大学内科研修プログラム内容・施設詳細 ……17～

【添付】
・順天堂大学医学部附属浦安病院内科研修プログラム内科専攻医研修マニュアル
・順天堂大学医学部附属浦安病院内科研修プログラム内科指導医マニュアル
・別表：内科専攻研修において求められる「疾患群』症例数』病歴提出数」について

＊文中に記載されている資料『専門研修プログラム整備基準』研修カリキュラム項目表』
『研修手帳（疾患群項目表）』技術・技能評価手帳』は、日本内科学会Webサイトにてご参照ください

1．順天堂大学内科専門医研修プログラムの概要

1．理念と使命における特性

① 理念[整備基準:1]

1) 内科専門医制度における専門医研修の基本理念は、指導医の適切な指導の下で、カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能を修得することです。

本プログラムでは、順天堂大学医学部附属浦安病院を基幹施設とし、順天堂医院において、臓器別内科系 subspecialty 領域の専門医にも共通して求められる内科領域全般の診断能力を養成し、高度な医療や先進的な医療を経験することが可能です。また、地域医療を担う連携施設における研修では、医療事情を理解し、実情に合わせた実践的な医療を行うことで、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも習得して、様々な環境下で全人的な内科医療を実践することが可能になるものと考えています。

順天堂においては、内科領域全般にわたる幅広い知識の習得と多くの実践を行いながら、内科全般の診療能力を身につけ、臨床能力獲得後は内科専門医として、臓器別内科系 subspecialty 領域の研鑽と並行して、全人的な内科医療が実践できる人材の育成を行っていきます。

②専門領域の使命[整備基準:2]

1) 内科専門医として、①高い倫理観を持ち、②最新の標準的医療を実践し、③安全な医療を心がけ、④プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、著しく専門医性に偏ることなく、それぞれの場に応じて、最新の医療を提供すると共にチーム医療を円滑に運営していくことになります。

2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行っていきます。

3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行っていきます。

4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究や基礎研究を実際に行う契機となる研修を行っていきます。

③特性

1) 本プログラムは千葉県の順天堂大学医学部附属浦安病院を基幹施設として、 千葉県東葛南部医療圏を基盤に大学病院の特性から近隣医療圏や、 高度医療のため他の医療圏からの流入にも対応しています。 また、それに伴った各施設の守備範囲や地域の実状に合わせて実践的な医療も行えるように訓練されます。研修期間は原則、基幹施設 2 年間+連携施設 1 年間あるいは基幹施設 1 年間+連携施設 2 年間の 3 年間になります。
※プログラム内容については、本人の希望と進捗状況により対応しています。

2) 本研修プログラムでは、症例の経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察を含めて記載し、複数の指導医による指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつ、一人一人の患者の全身状態や社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践する能力を涵養することを到達目標にします。

3) 基幹施設である順天堂大学医学部附属浦安病院での専攻医研修 2 年間(専攻医 2 年修了時)で、「研修手帳(疾患群項目表)」(日本内科学会 HP 参照)に定められた 70 疾患群(資料 2 参照)のうち、少なくとも通算で 45 疾患群以上、80 症例以上、病歴要約 20 編以上の経験・登録を目安とします。目標はあくまで目安であり、専攻医の進捗、キャリア志向、ライフイベント等を踏まえ、研修計画は柔軟に調整します。経験した症例は、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLLER)に登録できます。さらに専攻医 2 年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、日本内科学会病歴要約評価ボードによる評価に合格できる。

4) 各連携病院が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、原則として専門研修期間中の 1～2 年の間は、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことにより、内科専門医に求められる役割を実践します。

5) 専攻医 3 年修了時(基幹施設＋専門研修施設群各 1 年間以上)で「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 56 疾患群、120 症例以上(外来症例は最大 1 2 症例まで含むことができる)を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録できる可能な限り「研修手帳(疾患群項目表)」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の経験を目標とします。

④専門研修後の成果【整備基準:3】

内科専門医が活躍する場とその役割として、以下のものが想定されます。

1) 病院医療：内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち、身体・精神の統合的・機能的視野から診断・治療を行う能力を備え、内科疾患全般の初期対応とコモンディジーズの診断と治療を行います。また、内科系 Subspecialty 領域を担当する場合にも、臓器横断的な視点を持ち、全人的医療を実践します。

2) 地域医療：かかりつけ医として地域において常に患者と接し、内科系の慢性疾患に対して、生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を任務とする全人的な内科診療を実践します。

3) 救急医療：内科系急性・救急疾患に対するトリアージを含め、地域での内科系の急性・救急疾患への迅速かつ適切な診療を実践します。

本プログラムでは順天堂大学医学部附属浦安病院を基幹病院として、複数の連携施設と病院群を形成しています。複数の施設で臨床経験を積むことにより、各人のキャリア形成やライフステージを見据えて様々な環境に対応できる内科専門医が育成される体制を整えています。

2.内科専門医研修はどのように行われるのか 整備基準:4～5,13～16,30]

1) 研修段階の定義：内科専門医は 2 年間の初期臨床研修後に設けられた 3 年間の専門研修(専攻医研修)で育成されます。

2) 専門研修の 3 年間は、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度・資質に加えて、日本内科学会が定める「内科専門研修カリキュラム」(別添)にもとづく内科専門医に求められる知識・技能の修得目標を設定し、基本科目修了の終わりに達成度を評価します。具体的な評価方法は後の項目で提示します。

3) 臨床現場での学習：日本内科学会は内科領域を 70 疾患群(経験すべき病態等を含む)に分類し、代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載することを定めています。日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)における研修ログへの登録と指導医の評価と承認によって医目標達成までの段階を up to date に明示することとします。各年次の到達日標は以下の基準を目安とします。

○専門研修 1 年

- 症例：カリキュラムに定める 70 疾患群のうち、20 疾患群以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)の研修ログに登録することを目標とします。
- 指導医は研修ログの登録内容を確認し、適切な経験と知識の習得ができていることが確認できた場合に承認をし、不十分と考えた場合はフィードバックと指導を行う。
- 専門研修修了に必要に必要な病歴要約 10 編以上を記載して日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録します。
- 技能：疾患の診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、 および治療方針決定を指導医とともに行うことができるようにします。
- 態度：専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。

○専門研修 2 年

- 疾患：カリキュラムに定める 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45 疾患群以上、8 0症例以上の(できるだけ均等に)経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録することを目標とします。

  総合内科Ⅰ 1 疾患群のうち 1 疾患群以上
  総合内科 II 1 疾患群のうち 1 疾患群以上
  総合内科 III 1 疾患群のうち 1 疾患群以上
  消化器 9 疾患群のうち 5 疾患群以上
  循環器 10 疾患群のうち 5 疾患群以上
  内分泌 4 疾患群のうち 2 疾患群以上
  代謝 5 疾患群のうち 3 疾患群以上
  腎臓 7 疾患群のうち 4 疾患群以上
  呼吸器 8 疾患群のうち 4 疾患群以上
  血液 3 疾患群のうち 2 疾患群以上
  神経 9 疾患群のうち 5 疾患群以上
  アレルギー2 疾患群のうち 1 疾患群以上
  膠原病 2 疾患群のうち 1 疾患群以上
  感染症 4 疾患群のうち 2 疾患群以上
  救急 4 疾患群のうち 4 疾患群以上　　計 45 疾患群以上の経験を到達基準とする。

- また、専門研修修了に必要な病歴要約 20 編以上を記載し、日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)に登録します。
- 技能：疾患の診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医の監督下で行うことができるようにします。
- 態度：専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行います。専門研修 1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

○専門研修 3 年

- 疾患：主担当医として、カリキュラムに定める全 70 疾患群、計 200 症例以上（うち外来症例は最大 20 症例まで）を経験することを目標とします。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上、計 120 症例以

上（外来症例は最大 12 症例まで、入院症例は 108 症例以上）を経験し、登録する必要があります。

- 専門研修 2 年次までに登録を進めた病歴要約は、プログラム内の病歴指導医による一次評価を受け、その後、日本内科学会の病歴要約二次評価査読委員によるピアレビュー方式の形成的評価を受けます。査読者からのコメントに基づき、専門研修 3 年次修了までにすべての病歴要約 29 編が受理されるよう改訂を重ね、病歴記載能力を形成的に深化させます。
- 技能：内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うようにします。
- 態度：専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価を複数回行って態度の評価を行います。専門研修 2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。また、基本領域専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。なお、研修ログの登録内容と適切な経験と知識の修得状況は指導医によって承認される必要があります。
- ※上記の修了要件見直しは、専攻医 7 期生（2024 年度専門研修開始）以降に適用します。内科専門研修プログラム外での経験症例は 120 症例のうち最大 60 症例まで登録可能です。また、臨床研修時の症例については、例外的に各プログラムの委員会が認める内容に限り登録が認められ、登録は最大 60 症例、病歴要約への適用は最大 14 症例を上限とします。

内科研修プログラムの週間スケジュール

消化器内科

※黄色の部分は特に教育的な行事

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th><th>日</th></tr>
<tr><td rowspan="2">午前</td><td colspan="6">病棟研修</td><td rowspan="9">※</td></tr>
<tr><td colspan="6">検査(上下部内視鏡検査・腹部超音波検査など)・ラジオ波治療など</td></tr>
<tr><td rowspan="7">午後</td><td colspan="5">病棟研修</td><td rowspan="6">※</td></tr>
<tr><td>検査・治療
（治療内視鏡・RFA など）など</td><td rowspan="2">回診</td><td colspan="3">検査・治療
（治療内視鏡・RFA など）など</td></tr>
<tr><td>グループカンファ</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">肝胆膵カンファレンス</td><td>内視鏡(病理)カンファ</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>消化器内科カンファ
(症例検討・学会予行・抄読会)</td></tr>
<tr><td colspan="6"></td></tr>
</table>

※地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などについては、それぞれ開催に応じて参加します。

※平日夜ならびに土日祝日については、担当患者の病態に応じた診察のため、必要に応じてオンコール、日当直等を行います。

呼吸器内科

※黄色の部分は特に教育的な行事

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th><th>日</th></tr>
<tr><td rowspan="2">午前</td><td colspan="6">病棟研修</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>病理カンファ</td></tr>
<tr><td rowspan="5">午後</td><td>病棟研修</td><td rowspan="3">気管支鏡検査</td><td>病棟研修</td><td></td><td>病棟研修</td><td rowspan="3">※</td><td rowspan="4">※</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td rowspan="2">回診カンファレンス</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>グループカンファ</td><td></td><td></td><td>医局会</td><td>病理カンファ</td></tr>
<tr><td colspan="6">当直業務</td></tr>
</table>

※地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などについては、それぞれ開催に応じて参加します。

※平日夜ならびに土日祝日については、担当患者の病態に応じた診察のため、必要に応じてオンコール、日当直等を行います。

膠原病・リウマチ内科

※黄色の部分は特に教育的な行事

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th><th>日</th></tr>
<tr><td rowspan="3">午前</td><td colspan="2">受け持ち患者情報の把握</td><td>教授回診
(症例カンファレンス)</td><td colspan="3">受け持ち患者情報の把握</td><td rowspan="5">※2</td></tr>
<tr><td colspan="2">症例カンファレンス</td><td>教授回診
(病棟ラウンド)</td><td colspan="3">症例カンファレンス</td></tr>
<tr><td colspan="2">病棟研修</td><td>医局会</td><td colspan="3">病棟研修</td></tr>
<tr><td rowspan="4">午後</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td></td><td>外来陪席</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="3">※1</td></tr>
<tr><td>膠原病に関する講義</td><td>関節超音波</td></tr>
<tr><td colspan="5">病棟研修・回診</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="6">当直業務</td></tr>
</table>

※1 地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などについては、それぞれ開催に応じて参加します。

※2 平日夜ならびに土日祝日については、担当患者の病態に応じた診察のため、必要に応じてオンコール、日当直等を行います。

腎・高血圧内科

※黄色の部分は特に教育的な行事

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th><th>日</th></tr>
<tr><td rowspan="4">午前</td><td colspan="6">グループ回診</td><td rowspan="5">※</td></tr>
<tr><td colspan="6">病棟・血液浄化センター研修</td></tr>
<tr><td></td><td>病棟回診</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2">シャント手術</td></tr>
<tr><td>腎生検</td></tr>
<tr><td rowspan="7">午後</td><td colspan="5">病棟・血液浄化センター研修</td><td rowspan="6">※</td></tr>
<tr><td rowspan="3"></td><td>ランチョンセミナー</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>新患カンファ</td></tr>
<tr><td colspan="2">腎生検</td><td colspan="2">(腎生検)</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>病理カンファ</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="5">イブニングカンファレンス</td></tr>
<tr><td colspan="7">当直業務</td></tr>
</table>

※地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などについては、それぞれ開催に応じて参加します。

※平日夜ならびに土日祝日については、担当患者の病態に応じた診察のため、必要に応じてオンコール、日当直等を行います。

糖尿病内分泌内科

※黄色の部分は特に教育的な行事

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th><th>日</th></tr>
<tr><td rowspan="3">午前</td><td colspan="6">グループ回診</td><td rowspan="6">※</td></tr>
<tr><td colspan="6">病棟研修</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>糖尿病教室</td></tr>
<tr><td rowspan="5">午後</td><td colspan="5">病棟研修</td><td rowspan="4">※</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>教育入院講義</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="5">グループ回診</td></tr>
<tr><td></td><td>多職種カンファ</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="7">当直業務</td></tr>
</table>

※地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などについては、それぞれ開催に応じて参加します。

※日夜ならびに土日祝日については、担当患者の病態に応じた診察のため、必要に応じてオンコール、日当直等を行います。

※病棟の予定の中に、①学生・初期研修医の指導、②クルズス（週1～2回）、③内分泌負荷試験・副腎静脈サンプリング、
④持続血統モニター　を含む

血液内科

※黄色の部分は特に教育的な行事

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th><th>日</th></tr>
<tr><td rowspan="3">午前</td><td colspan="6">病棟研修</td><td rowspan="9">※</td></tr>
<tr><td colspan="6">グループ回診</td></tr>
<tr><td colspan="2">初診外来希望者</td><td></td><td colspan="2">初診外来希望者</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="6">午後</td><td colspan="5">病棟研修</td><td rowspan="5">※</td></tr>
<tr><td colspan="5">グループ回診</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>ランチョンセミナー</td><td></td><td>講演会視聴</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>多職種会議</td></tr>
<tr><td colspan="6">当直業務</td></tr>
</table>

※地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などについては、それぞれ開催に応じて参加します。

※平日夜ならびに土日祝日については、担当患者の病態に応じた診察のため、必要に応じてオンコール、日当直等を行います。

脳神経内科

※黄色の部分は特に教育的な行事

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th><th>日</th></tr>
<tr><td rowspan="3">午前</td><td colspan="6">グループ回診（8:00-8:30）</td><td rowspan="9">※</td></tr>
<tr><td colspan="5">多職種カンファレンス（8:30-9:30）</td><td rowspan="2">病棟研修</td></tr>
<tr><td colspan="2">病棟研修</td><td>外来研修</td><td>病棟研修</td><td>脳血管造影検査</td></tr>
<tr><td rowspan="6">午後</td><td>SCU カンファ</td><td rowspan="3">病棟研修</td><td>超音波検査
（経食道心エコー検査、頸動脈エコーなど）</td><td>リハビリカンファ</td><td rowspan="3">病棟研修</td><td rowspan="3">※</td></tr>
<tr><td>病棟研修</td><td rowspan="2">病棟研修</td><td>総回診
（14:00-15:30）</td></tr>
<tr><td>画像カンファ</td></tr>
<tr><td colspan="6">当直業務（平日 1 回/週、土日 1 回/月）</td></tr>
</table>

※毎月第 4 木曜日は 16 時 30 分から多職種からなる脳卒中地域連携の検討会を開催

※毎月第 4 金曜日は 17 時から脳神経外科と症例検討会を開催

※脳卒中急性期等神経救急対応は適宜診療に参加する

※外来研修はレジデントの病診連携日によって変更する場合がある

循環器内科

※黄色の部分は特に教育的な行事

	月	火	水	木	金	土	日
午前	カテーテルカンファ		カテーテルカンファ				
	病棟研修						
	心臓カテーテル実習	心筋シンチグラフィ実習	心臓カテーテル実習		電気生理学検査実習	運動負荷心電図実習	
午後	病棟研修						※
	心臓カテーテル実習	チャート回診	心臓カテーテル実習	心エコー実習	電気生理学検査実習		
		教授回診	電気生理学検査実習		チャート回診	※	
		医局会・症例検討会			勉強会		
	見習い当直(2～3 回/月)						

※地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などについては、それぞれ開催に応じて参加します。
※平日夜ならびに土日祝日については、担当患者の病態に応じた診察のため、必要に応じてオンコール、日当直等を行います。

4) 臨床現場を離れた学習

① 内科領域の救急対応最新のエビデンスや病態・治療法について各科でセミナー等が定期的に開催されているので、それを聴講し学習します。

② 日本専門医機構が定める専門医共通講習会と同様の内容とし、院内で開催される医療安全、感染対策、医療倫理講習会等の講習会へは必ず出席し学習します。

③ 内科系学術集会、指導医講習会、JMECC(内科救急講習会)等においても学習します。なお、それぞれ受講歴は登録され、充足状況が把握されます。

5) 自己学習

研修カリキュラムにある疾患について、各内科系学会が行っているセミナーのＤＶＤやオンデマンドの配信を用いて自己学習します。また、内科学会雑誌のセルフトレーニング問題を解き、内科全領域の知識のアップデートの確認手段として活用します。原則、週に 1 回、指導医と Meeting を行い、自己学習結果を指導医が評価し、研修手帳に記載します。

6) 大学院進学

大学院における臨床研究は臨床医としてのキャリアアップにも大いに有効であるため、臨床研究の期間も専攻医の研修期間として認められます。大学院へ進学しても専門医資格が取得できるよう、プログラムを適切に調整するようプログラムが作成されています。

7) Subspecialty 研修

それぞれの専門医像に応じた研修プログラムを準備しています。条件を満たせば、Subspecialty の研修に比重を置く期間を設け重点的に研修することも可能です。また、内科と特定の Subspecialty を連動して研修(平行研修)し、

早期の Subspecialty 専門医を目指すことも可能とします。大学院進学を検討する場合についても後述を参照してください。

3. 専門医の到達目標(項目 2-3)参照[整備基準:4,5,8-11]

1) 3 年間の後期研修期間で、以下に示す内科専門医受験資格を完了することとします。
   ① 70 に分類された各カテゴリーのうち、最低 56 のカテゴリーから 1 例を経験することとします。
   ② 日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)へ症例(定められた 200 件のうち、最低 160 例)を登録しそれを指導医が確認・評価することとします。
   ③ 登録された症例のうち、29 症例を病歴要約として日本内科学会病歴要約評価ボードへ提出し、査読委員から合格の判定をもらうこととします。
   ④ 技能・態度:内科領域全般について診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針を決定する能力、基本領域専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得することとします。なお、習得すべき疾患、技能、態度については多岐にわたるため、研修手帳を参照してください。

2) 専門知識について
   内科研修カリキュラムは総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病および類縁疾患、感染症、救急の 13 領域から構成されています。順天堂大学医学部附属浦安病院には 8 つの内科系診療科があり、救急疾患に関しては、各診療科および救急診療科で対応しており、内科領域全般の疾患を網羅できる体制が敷かれています。

4. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得[整備基準:13]

1) 患者カンファレンス・グループ回診・患者の申し送り・回診を行って指導医からフィードバックを受け、指摘された課題について学習を進めます。
2) 総回診：受持患者について教授をはじめとした指導医陣に報告してフィードバックを受けると同時に、受持以外の症例についても見識を深めます。
3) 症例検討会(原則毎週)：診断・治療困難例、臨床研究症例などについて専攻医が報告し、指導医からのフィードバック、質疑などを行います。
4) 抄読会・研究報告会：受持症例等に関する論文概要を口頭説明し、意見交換を行う。研究報告会では講座で行われている研究について討論を行い、学識を深め、国際性や医師の社会的責任について学びます。
5) 診療手技セミナー：診療科によっては、随時手技のセミナーを行っています。
6) CC、CPC：興味深い症例、死亡・剖検症例、難病・希少症例について、病理診断等の検討を行います。
7) 指導医ミーティング：週に 1 回、指導医とのを行い、その際、当該週の自己学習結果を指導医が評価し、研修手帳に記載します。
8) 学生・初期研修医に対する指導：病棟や外来で医学生・初期研修医を指導します。後輩を指導することは、自分の知識を整理・確認することにつながることから、当プログラムでは、専攻医の重要な取組と位置づけています。

5. 学問的姿勢[整備基準:6,30]

1）患者から学ぶという姿勢を基本とし、2）科学的な証拠に基づいた診断、治療を行う(EBM: evidence based medicine)、3）最新の知識、技能を常にアップデートし継続する(生涯学習)、4）診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を推奨します。さらに、日頃の診療で得た疑問や発想を科学的に追求するため、5) 症例報告等を通じて深い洞察力を磨くといった基本的な学問的姿勢を涵養するとともに研究発表、論文の作成などを通じて、科学的思病態に対するさらなる研鑽を内外へ広く情報発信することも医師としての活動としてするものとします。

6.医師としての倫理性、社会性など[整備基準:7]

医師としての日々の診察や活動にともに、内科専門医として高い倫理観と社会性を有することが要求されため、以下の要件を患者への診療を通じて医療現場等から学んでいくものとします。

1) 患者とのコミュニケーション能力、
2) 患者中心の医療の実践、
3) 患者から学ぶ姿勢、
4) 自己省察の姿勢、
5) 医の倫理への配慮、
6) 医療安全への配慮、
7) 公益に資する医師としての責務に対する自律性(プロフェッショナリズム)、
8) 地域医療保健活動への参画、
9) 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力、
10) 後輩医師への指導

順天堂大学医学部附属浦安病院(基幹病院)において症例経験や技術習得において、単独で履修可能であるが、地域医療を含めた複数の施設で研修を実施することで、多岐にわたる患者の診察や多くのコミュニケーションをとることで、1施設のみでは経験できない経験を積むことを目的に複数施設での研修を行うように全てのコースにおいて連携施設(各附属病院、その他の連携施設)での研修期間を設けています。(詳細は項目 8 を参照してください)。

連携施設では基幹施設で研修不十分となる領域を主として研修し、入院症例だけでなく外来での経験となる能力、知識、スキル、行動の組み合わせを指します。施設を問わず、患者への診療を通して、医療現場から学ぶ姿勢の重要性を知ることができます。また、インフォームド・コンセントを取得する際には上級医に同伴し、接遇態度、患者への説明、予備知識の重要性などについて学習します。医療チームの重要な一員としての責務（患者の診療、カルテ記載、病状説明など)を果たし、リーダーシップをとれる能力を獲得していくとともに研修中は後輩医師(研修医・医学生)への教育、指導を行います。医療安全と院内感染症対策を充分に理解するため、年に 2 回以上の医療安全講習会、感染対策講習会に出席します。出席回数は常時登録され、年度末近くになると受講履歴が個人にフィードバックされ、受講を促されます。

7. 研修施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方 [整備基準:25,26,28,29]

順天堂大学医学部附属浦安病院(基幹病院)において全ての症例経験や技術習得に関して、単独で履修可能であっても、地域医療を実施するため、複数施設での研修を行うことが望ましく、その経験を求めるものとします。地域医療を経験するため、連携施設(各附属病院等)での研修期間を設けています。連携病院へのローテーションを行うことで、人的資源の集中を避け、派遣先の医療レベル維持にも貢献できます。連携施設では基幹施設で研修不十分となる領域を主として研修します。入院症例だけでなく外来での経験を積み、施設内で開催されるセミナー等へも参加します。

地域における指導の質および評価の正確さを担保するため、常にメールなどを通じて研修センターと連絡ができる環境を整備し、月に1回、指定日に基幹病院を訪れ、指導医と面談し、プログラムの進捗状況を報告します。

8. 年次毎の研修計画 [整備基準:16,25,31]

本プログラムでは専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて個別の研修プログラムに沿って研修することが可能です。将来の Subspecialty が決定している専攻医は不足している症例を経験するため一定の期間希望する内科ローテーションします。一方で、Subspecialty が未決定あるいは、総合内科専門医を目指す場合は多くの内科をローテーションす

るようなプログラムにします。原則、専攻医は自分が専門とする各内科に所属すると同時に専攻医として 3 年間で各内科や内科臨床に関連ある救急部門などを一定期間ローテートします。さらに順天堂大学医学部附属浦安病院のプログラムにおいては、複数の連携施設を有することから、地域医療を中心とした診療を、一定期間ローテーションすることができます。

いずれの場合も遅滞なく内科専門医受験資格を得られる様に工夫されており、専攻医は卒後 5-6 年で内科専門医、7-8 年で Subspecialty 領域の専門医取得ができます。

① 将来の subspecialty 領域が決定している場合

希望する臓器別内科系 subspecialty 領域を重点的に研修する場合、専攻医研修の 2 年目までに必要とされる症例を揃えつつ、早くから目指す専門領域で研鑽、subspecialty の初期トレーニングを行うことを目標とします。また、内科と特定の Subspecialty を連動して研修(平行研修)し、早期 Subspecialty 専門医を目指すことも可能です。通常より早く subspecialty 領域の研修を開始し、理想的医師像とする指導医や上級医師を接することで、内科医としての基本姿勢のみだけでなく、目指す領域の知識、技術を学習することにより、専門医として自覚することができ、より内科専門医取得への motivation を強化することができます。

専攻医の期間は、内科研修を継続して臓器別 subspecialty 領域を重点的に研修するとともに、充足していない症例を経験します。3 か月間を基本として他の内科での研修を行い、原則 1 年以上は専門研修施設群のなかの施設での研修を行うものとします。なお、診療科の研修期間等については、不足している研修科を中心に決定するものとし、研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上、希望する臓器別内科系 subspecialty 領域の責任者とプログラム統括責任者が協議して決定します。

大学院進学を希望する専攻医の先生には、大学附属病院の機能(研究・教育)として、医学・臨床の推進に重要な役割を担うため、臨床と研究を同時進行させることも可能です。個人の進捗状況により大学院の時期を選択したうえで、効率良く内科研修ができるよう配慮します。なお、大学院進学の許可はプログラム委員会において判定されます。

② 将来の subspecialty 領域が未定な場合

総合内科(generality)の専門医を目指す場合や、将来の subspecialty が未定な場合は、内科の領域を偏りなく学ぶことを目的とし専攻医(後期研)修期間の 3 年間において内科領域を担当する全ての科をローテーションします。原則として 3ヵ月を 1 単位として、1 年間に 4 科、3 年間で全ての内科 9 科をローテーションします。また、地域医療を経験するため、原則 1 年以上は専門研修施設群のなかの施設での研修を行ものとし、診療科の研修期間等については、不足している研修科を中心に決定するものとします。研修する連携施設等の選定は、担当指導医が専攻医と面談のうえ、プログラム統括責任者が決定します。

③ 連携施設中心に研修を行う場合

希望する subspecialty は決定しており、基幹病院である順天堂大学附属浦安病院以外の連携施設を中心に、総合内科医として必要な知識や経験をしていきます。附属病院および連携施設でも十分な指導体制を敷いているので、専門研修修了に必要な症例を経験することが可能です。但し、研修する施設や内容の選定に関しては、プログラム統括責任者が専攻医と面談の上、決定していくものとします。

9. 専門医研修の評価 [整備基準:17-22]

1) 形成的評価（指導医の役割）

指導医およびローテーション先の上級医は、専攻医の日々のカルテ記載と、専攻医が日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録した当該科の症例登録を経時的に評価し、症例要約の作成についても指導します。また、技術・技能についての評価も行い、年に複数回、自己評価、指導医による評価、ならびにメディカルスタッフによる 360 度評価を行います。その結果は J-OSLER を通じて集計され、担当指導医によって専攻医にフィードバックされ、改善を促します。臨床研修センターおよび管理課は指導医のサポートと評価プロセスの進捗状況についても追跡し、必要

に応じて指導医へ連絡を取り、評価の遅延がないようにリマインドを適宜行います。

病歴要約については、プログラム内の病歴指導医、病歴要約二次評価査読委員による評価とフィードバックを通じて、専門研修 3 年次修了までにすべての病歴要約が受理されるよう改訂を進め、病歴記載能力を形成的に深化させます。施設の研修委員会は年に複数回、プログラム管理委員会は年に 1 回以上、J-OSLER を用いて履修状況を確認し、必要に応じて適切な助言と研修中プログラムの修整を行います。

2) 総括的評価(基準と時期)

専攻医研修 3 年目の 3 月に研修手帳を通して経験症例、技術・技能の目標達成度について最終的な評価を行います。修了判定では、70 疾患群中 56 疾患群以上、120 症例以上（外来症例は最大 12 症例まで）、29 編の病歴要約の受理、所定の講習受講、JMECC 受講、学会発表または論文発表などを確認します。最終的には指導医による総合的評価に基づいて、プログラム管理委員会によってプログラムの修了判定が行われます。この専攻医研修修了後に実施される内科専門医試験に合格して、内科専門医の資格を取得します。

3) 多種評価などの評価

専攻医の研修態度等については、指導医や上級医のみでなく、メディカルスタッフ(病棟看護師長、臨床検査・放射線技師・臨床工学技士など)から、接点の多い職員 5 名程度を指名し、社会人としての適性、医師としての適性、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を毎年 3 月に評価します。評価法については別途定めるものとします。

4) 専攻医による自己評価とプログラムの評価

日々の診療・教育的行事において指導医から受けたアドバイス・フィードバックに基づき、指導医ミーティングの際に、指導医と研修上の問題点や悩み、研修の進め方、キャリア形成などについて考える機会を持ちます。毎年 3 月に現行プログラムに関するアンケート調査を行い、専攻医の満足度と改善点に関する意見を収集し、次期プログラムの改訂の参考とします。なお、アンケート用紙は別途定めます。

10. 専門研修プログラム管理委員会 [整備基準:35～39]

1) 内科研修プログラム管理運営体制

本プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理する内科研修プログラム管理委員会を順天堂大学医学部附属浦安病院に設置し、その委員長と各内科から 1 名ずつ管理委員を選任します。プログラム管理委員会の下部組織として、基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き、委員長が統括します。

2) その他の委員会

履修すべ内科専攻医の修了要件において、調整等の必要と思われる案件が生じた場合は、それに対応する委員会をプログラム管理委員会のもと、適宜設置するものとします。

11. 専攻医の就業環境(労務管理) [整備基準:40]

専攻医の勤務時間、休暇、当直、給与等の勤務条件に関しては、専攻医の就業環境を整えるとともに、労働基準法を順守し順天堂大学医学部附属浦安病院の医就業規則及び給与規則に従うものとします。

専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と安全衛生管理室(健康管理)等で管理してき、健康維持を害する報告があった場合は、随時対応致します。特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は、校医およびメンタルクリニック医師等のカンセリングを行っていきます。

専攻医は採用時に上記の労働環境、労働安全、勤務条件の説明を受けることになります。プログラム管理委員会では

各施設における労働環境、労働安全、勤務に関して報告され、これらの事項について総括的に評価していきます。

※本プログラムでは基幹施設、連携施設に関わらず、基幹施設の順天堂大学医学部附属浦安病院の統一的な就業規則と給与規則で統一化していますが、このケースを標準とするものではありません。各施設の個々のプログラムにおいて事情は様々であり、それぞれのプログラム内で協議され、いろいろなケースが有ることが想定されますが、

各施設も専攻医にとつて配慮のある明確な諸規則を用意し、説明する必要があることを順守するものとします。

12. 専門研修プログラムの改善方法 [整備基準:49～51]

定期的に研修プログラム管理委員会を順天堂大学附属浦安病院にて開催し、プログラムが遅滞なく遂行されているかを全ての専攻医について評価し、問題点を等明らかにします。

また、各指導医と専攻医の双方からの意見を聴取して適宜プログラムに反映させていきます。さらに研修プロセスの進行具合や各方面からの意見を基に、プログラム管理委員会は毎年、次年度のプログラム全体を見直していきます。

なお、専門医機構によるサイトビジット(ピアレビュー)に対しては研修管理委員会が真摯に対応し、専門医の育成プロセスの制度設計と専門医の育成が保証されているかのチェックを受けプログラムの改善に繋げます。

13. 専攻医修了判定 [整備基準：21,53]

日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)に以下のすべてが登録され、かつ担当指導医が承認していることをプログラム管理委員会が確認して修了判定会議を行います。

1) 修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上の症例（外来症例は最大 12 症例まで含むことができ、入院症例は 108 症例以上）を経験し、登録する必要があります。
2) 所定の受理された 29 編の病歴要約
3) 所定の 2 編の学会発表または論文発表
4) JMECC 受講
5) プログラムで定める講習会受講
6) 指導医とメディカルスタッフによる 360 度評価の結果に基づき、医師としての適正に疑問がないこと。

14. 専攻医が専門研修プログラムの終了に向けて行うべきこと [整備基準:21,22]

専攻医は様式(未定)を専門医認定申請年の 1 月末までにプログラム管理委員会に送付するようにしてください。一方で、プログラム管理委員会は 3 月末までに修了判定を行い、研修証明書を専攻医に送付します。
要件が揃っている専攻医は日本専門医機構内科専門医委員会に専門医認定試験受験の申請を行ってください。

15. 研修プログラムの施設群 [整備基準:23～27]

順天堂大学医学部附属浦安病院が基幹施設となり、順天堂大学医学部附属順天堂医院をはじめとした施設で専門研修施設群を構成することにより、総合的な研修ばかりでなく、各領域の専門性に特化した研修、各人の将来に適した内容を選択することが可能となります。

16. 専攻医の受入数

順天堂大学医学部附属浦安病院における専攻医の上限(学年分)は合計１８名です。また、担当指導医ひとりが担当できる専攻医の上限は 3 名です。

1) 剖検体数は 2022 年度 9 体、2023 年度 14 体、2024 年度 11 体、2025 年度 14 体です。
2) 経験すべき症例数の充足について

表. 順天堂大学医学部附属浦安病院診療科別診療実績

診療科名	2025 年度 入院患者のべ人数	2025 年度 外来患者のべ人数
総合診療科	0	5,096
消化器内科	16,104	31,531
循環器内科	18,985	38,706
糖尿病・内分泌内科	5,691	20,912
腎・高血圧内科	10,490	17,286
呼吸器内科	18,870	29,167
血液内科	12,385	17,228
脳神経内科	16,323	30,129
膠原病・リウマチ内科	8,238	18,681
救急科	9,500	7,664

上記表の入院患者について DPC 病名を基本とした各診療科における疾患群別の入院患者数と外来患者疾患を分析したところ、全 70 疾患群において充足可能であることが確認されました。

しかしながら、領域によっては、専攻医全員の症例を確保するのが困難であることから、連携施設での不足分を充足することで、修了要件を充分に満たすことが可能です。

3) 専攻医の 3 年間に研修する連携施設・特別連携施設には、高次機能、専門病院施設、地域連携病院施設および僻地における医療施設の施設があり、専攻医のさまざま希望・将来像に対応可能です。

17. Subspecialty 領域

内科専攻医になる時点で将来目指す Subspecialty 領域が決定していれば、Subspecialty 研修を視野に入れた内容で研修を行っていくことになります。

条件を満たせば Subspecialty の研修に比重を置く期間を設け重点的に研修する研修内容を変更することも可能です。また、内科と特定の Subspecialty を連動して研修(平行研修)し、早期の Subspecialty 専門医を目指すことも可能です。

18. 研修の体止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件[整備基準項目 33]

1) 専門研修における娠・出産・育児、疾病、その他の正当な理由による休止期間は最長 6 ヶ月とします。
プログラム終了要件を満たしており、かつ休職期間が 6 ヶ月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとします。不足がある場合は、復帰後に研修期間内の調整で不足分を補うこととします。原則として、引き続き同一の専門研修プログラムで研修を行い、6 か月を超えた休止日数分以上の研修を行うものとします。その後も長期休止した場合は、未修了とみなし、不足分を予定修了日以降に補うこととします。留学期間は、原則として研修期間として認めておりません。
2) 研修中に居住地の移動、その他の事情により、研修開始施設での研修続行が困難になった場合は、移動先の基

幹研修施設において研修を続行できます。その際、移動前と移動先の両プログラム管理委員会が協議して調整されたプログラムを摘要します。この一連の経緯は専門医機構の研修委員会の承認を受ける必要があります。

19. 専門研修指導医 [整備基準項目:36]

指導医は下記の基準を満たした内科専門医になり、内科の専攻医を指導し、評価を行います。最終的には以下の必須要件を満たすことを目指しますが、新しい内科専門医制度の内科指導医の要件を満たしていれば 2025 年まで指導医となることができます。

【必須要件】

1. 内科専門医を取得していること
2. 専門医取得後に臨床研究論文(症例報告含む)を発表する(「first author」もしくは「corresponding. author」であること)、もしくは学位を有していること
3. 厚生労働省もしくは学会主催の指導医講習会を修了していること
4. 内科医師として十分な診療経験を有すること

【選択とされる要件(下記の 1、2 いずれかを満たすこと)】

1. CPC、CC、学術集会(医師会含む)などへ主導的立場として関与・参加すること
2. 日本内科学会での教育活動(病歴要約の査読、JMECC のインストラクターなど)

※但し、当初は指導医の数も多く見込めないことから、すでに「総合内科専門医」を取得している方々は、そもそも「内科専門医」より高度な資格を取得しているため、申請時に指導実績や診療実績が十分であれば内科指導医と認めます。また、現行の日本内科学会の定める指導医については、内科系サブスペシャルティ専門医資格を 1 回以上の更新歴がある者は、これまでの指導実績から、移行期間(2025 年まで)においてのみ指導医と認めます。

◎新しい内科専門医制度の内科指導医の要件

内科指導医は下表の条件を満たした方が登録できます

(2025 年で暫定措置が終了し、内科専門医資格が必須となります)。

	必要な条件	2025 年までの 暫定措置
認定資格	総合内科専門医	認定内科医
臨床経験年数	7 年以上(初期研修からカウント)	
業績発表	過去 5 年間で 3 篇以上あること (共著者・共同研究者でも可。商業誌は不可)	
その他	研修プログラムに参加している施設で常勤(就 4 日以上、週 32 時間以上の勤務)していること(勤務時間が十分であれば、雇用契約上は非常勤でも可)。	

20. 専門研修実績記録システム、マニュアル等[整備基準 項目 41-48]

専門研修は別添の専攻医研修マニュアルにもとづいて行われます。専攻医は日本内科学会専攻医登録評価システム(J-OSLER)に研修実績を記載し、指導医より評価表による評価およびフィードバックを受けます。総括的評価は臨床研修専門医研修カリキュラムに則り、少なくとも年 1 回行います。

21. 研修に対するサイトビジット(訪問調査)[整備基準：51]

研修プログラムに対して日本専門医機構からのサイトビジットがあります。サイトビジットにおいては研修指導体制や研修内容について調査が行われます。その評価については、プログラム管理委員会に伝えられ、必要な場合は研修プログラムの改良を行っていきます。

22. 専攻医の採用と修了[整備基準項目：52,53]

1) 採用方法 順天堂大学医学部附属浦安病院内科専門研修プログラム管理委員会は、専攻医登録スケジュールに基づき、専攻医の応募を受付けます。(ただし 2026 年度については整備が整い次第となります)プログラムへの応募者は、研修プログラム責任者宛に所定の形式の『順天堂大学医学部附属浦安病院内科専門研修プログラム応募申請書』等の一式を提出下さい。申請書は以下のいずれかの方法にて入手して期限内に提出してください。
   ⑴ 順天堂大学医学部附属浦安病院臨床研修センターに問い合わせのうえ、入手する
   ⑵ 順天堂大学医学部附属浦安病院の website からダウンロード(準備中)
   ⑶ E-mail で問い合わせ(kensyui@juntendo-urayasu.jp)のいずれの方法でも入手可能です。
   ⑷ 内科の各診療科担当者からも入手可能です。
   原則として書類選考および面接を行い、採否を決定して本人に文書で通知します。応募者および選考結果については順天堂大学医学部附属浦安病院内科専門研修プログラム管理委員会にて報告のうえ、通知致します。

2) 研修開始届け
   研修を開始した専攻医は、各年度の４月１日までに以下の専攻医氏名報告書を、順天堂大学医学部附属浦安病院内科専門研修プログラム管理委員会(kensyui@juntendo-urayasu.jp)および日本専門医機構内科領域研修委員会に提出します。
   - 専攻医の氏名と医籍登録番号、内科医学会会員番号、専攻医の卒業年度、専攻医の研修開始年度
   - 専攻医の履歴書
   - 専攻医の初期研修修了証

3) 研修の修了全研修プログラム終了後、プログラム統括責任者が召集するプログラム管理委員会にて審査し、研修修了の可否を判定します。
   審査は書類の点検と面接試験からなります。点検の対象となる書類は以下の通りです。
   ⑴ 専門研修実績記録
   ⑵ 「経験目標」で定める項目についての記録
   ⑶ 「臨床現場を離れた学習」で定める講習会出席記録
   ⑷ 指導医による「形成的評価表」 面接試験は書類点検で問題にあつた事項について行われます。

以上の審査により、内科専門医として適格と判定された場合は、研修修了となり、修了証が発行されます。

23. 順天堂大学浦安病院内科研修プログラム内容・施設詳細

順天堂大学浦安病院内科研修プログラム

順天堂大学医学部附属浦安病院の研修プログラムは、各自の将来像に応じて as you like で研修のプログラム内容を組み立てていくものとし、基本的に 1 プログラムで各入局先(Subspecialty)と相談のうえ、決定していくものとします。具体的なプログラムサンプルについて以下に表記します

<table>
<tr><td></td><td colspan="11">順天堂大学医学部附属浦安病院内科研修プログラム</td></tr>
<tr><td></td><td>4 月</td><td>5 月</td><td>6 月</td><td>7 月</td><td>8 月</td><td>9 月</td><td>10 月</td><td>11 月</td><td>12 月</td><td>1 月</td><td>2 月</td><td>3 月</td></tr>
<tr><td rowspan="4">1 年目</td><td colspan="12">基幹病院</td></tr>
<tr><td colspan="3">（内科 1）</td><td colspan="3">（内科 2）</td><td colspan="3">（内科 3）</td><td colspan="3">（内科 4）</td></tr>
<tr><td colspan="12">医療安全・感染症・医療倫理講習会等年 2 回の受講、各種 CPC の受講、</td></tr>
<tr><td colspan="12">当直を 1～2 回/月程度・3 年目までに当直研修（6 ヶ月）※</td></tr>
<tr><td rowspan="4">2 年目</td><td colspan="9">基幹病院</td><td colspan="3" rowspan="2">予備
（症例不足科または希望科）</td></tr>
<tr><td colspan="3">（内科 7）</td><td colspan="3">（内科 8）</td><td colspan="3">（内科 9）</td></tr>
<tr><td colspan="12">医療安全・感染症・医療倫理講習会等年 2 回の受講、各種 CPC の受講、※</td></tr>
<tr><td colspan="12">外来 1 回/週程度、当直を 1～2 回/月程度・3 年目までに当直研修（6 ヶ月）※</td></tr>
<tr><td rowspan="4">3 年目</td><td colspan="6">連携施設 A</td><td colspan="6">連携施設 B</td></tr>
<tr><td colspan="3">（内科 5）</td><td colspan="3">（内科 6）</td><td colspan="6">入局先あるいは症例が不足している診療科を中心に研修をする</td></tr>
<tr><td colspan="12">医療安全・感染症・医療倫理講習会等年 2 回の受講、各種 CPC の受講、※</td></tr>
<tr><td colspan="12">JMECC を受講　外来 1 回/週程度、当直を 1～2 回/月程度・3 年目までに当直研修（6 ヶ月）※</td></tr>
<tr><td>※必須プログラム要件</td><td colspan="12">医療安全・感染症・医療倫理講習会等年 2 回の受講、CPC の受講、JMECC 受講
外来を 2 年目から 1 回/週程度（最低 6 ヶ月）、当直研修を 1～2 回/月程度 3 年目までに行う</td></tr>
<tr><td>ローテーション
について</td><td colspan="12">・基本的に基幹病院（順天堂大学医学部附属浦安病院）での研修は症例の不足している各内科を中心にローテーションします。
・ローテーション先等については、初期研修医時の症例経験も考慮し、決定していくものとします。
・モデルプログラムとして紹介するコースにおいては、連携施設での研修を 3 年目としていますが、連携施設での研修を何年目で行うのか、研修施設および研修期間、順番等については、進捗状況および本人の希望等を踏まえ、担当指導医と相談して決定していくことになります。
・ローテーションの期間は、基幹病院（順天堂大学医学部附属浦安病院）および連携施設共に現時点では最低 1 年間とします。
・連携施設の研修期間については、3 カ月からとし、ローテーション中は該当科の指導医が研修指導をします。
・当直、外来については、ローテーション先の都合により開始時期、期間がことなります。</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="12">・大学院入学は、このプログラムでどの学年からも受け入れ可能です。希望者は担当指導医と相談のうえ決定していくことになります。</td></tr>
</table>

研修施設群の各施設名

施設分類	施設名	病床数	内科権病床数	内科権診療科数	内科指導医数	総合内科専門医数	内科剖検症例数
基幹施設	順天堂大学医学部附属浦安病院	785	254	8	50	31	14
連携施設	順天堂大学医学部附属順天堂医院	1,051	335	9	164	97	27
	順天堂大学医学部附属静岡病院	603	183	8	18	14	2
	順天堂大学医学部附属越谷病院	248	170	7	5	5	0
	順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター	404	272	8	20	9	4
	順天堂大学医学部附属練馬病院	490	151	9	21	12	1
	島田総合病院	185	100	5	4	1	0
	北習志野花輪病院	147	56	8	3	1	0
	亀田総合病院	917	521	13	40	24	24
	地方独立行政法人総合病院 旭中央病院	989	310	12	30	25	62
	江東病院	286	134	8	14	14	2
	東京都立東部地域病院	314	112	6	9	2	2

各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

施設名	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
順天堂大学医学部附属 浦安病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
順天堂大学医学部附属 順天堂医院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
順天堂大学医学部附属 静岡病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
順天堂大学医学部附属 越谷病院	○	○	○	△	△	△	○	×	○	○	○	○	○
順天堂大学医学部附属 順天堂東京江東高齢者医療センター	○	○	○	○	○	○	○	×	○	△	○	△	△
順天堂大学医学部附属 練馬病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
島田総合病院	○	○	○	△	○	○	○	△	○	△	△	○	○
北習志野花輪病院	○	△	○	×	△	○	△	×	×	△	△	○	×
亀田総合病院	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×
地方独立行政法人総合病院 旭中央病院	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○
江東病院	○	○	○	△	○	○	○	△	○	○	△	○	○
東京都立東部地域病院	△	○	○	△	△	△	○	△	△	○	○	○	○

内科専門研修 修了要件（「症例数」、「疾患群」、「病歴要約」）一覧表

	内容	症例数	疾患群	病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ（一般）	計10以上	1	2
	総合内科Ⅱ（高齢者）		1	
	総合内科Ⅲ（腫瘍）		1	
	消化器	10以上	5以上	3
	循環器	10以上	5以上	3
	内分泌	3以上	2以上	3
	代謝	10以上	3以上	
	腎臓	10以上	4以上	2
	呼吸器	10以上	4以上	3
	血液	3以上	2以上	2
	神経	10以上	5以上	2
	アレルギー	3以上	1以上	1
	膠原病	3以上	1以上	1
	感染症	8以上	2以上	2
	救急	10以上	4	2
外科紹介症例		2以上		2
剖検症例		1以上		1
合計		120以上 （外来は最大12）	56 疾患群 （任意選択含む）	29 （外来は最大7）

補足

1. 目標設定と修了要件

   以下に年次ごとの目標設定を掲げるが、目標はあくまで目安であるため必達ではなく、修了要件を満たせば問題ない。各プログラムでは専攻医の進捗、キャリア志向、ライフイベント等を踏まえ、研修計画は柔軟に取り組んでいただきたい。

	症例	疾患群	病歴要約
目標（研修終了時）	200	70	29
修了要件	120	56	29
専攻医2年修了時 目安	80	45	20
専攻医1年修了時 目安	40	20	10

2. 疾患群：修了要件に示した領域の合計数は41疾患群であるが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。
3. 病歴要約：病歴要約は全て異なる疾患群での提出が必要。ただし、外科紹介症例、剖検症例については、疾患群の重複を認める。
4. 各領域について
   ① 総合内科：病歴要約は「総合内科Ⅰ（一般）」、「総合内科Ⅱ（高齢者）」、「総合内科（腫瘍）」の異なる領域から1例ずつ計2例提出する。
   ② 消化器：疾患群の経験と病歴要約の提出それぞれにおいて「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。
   ③ 内分泌と代謝：それぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。
   例）「内分泌」2例＋「代謝」1例、「内分泌」1例＋「代謝」2例
5. 臨床研修時の症例について：例外的に各プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。登録は最大60症例を上限とし、病歴要約への適用については最大14症例を上限とする。

専門医研修施設群の構成

1）基幹施設

	**順天堂大学医学部附属浦安病院** 住所：千葉県浦安市富岡 2 丁目 1 番 1 号 TEL：047-353-3111（大代表） 特徴：高度専門医療、総合診療群整備、3 次救急、地域支援病院
認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	• 当院は初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です • メンタルストレスに対しての相談窓口として健康管理室があります。 • 研修に必要な図書館と図書館内と研修室はインターネット環境があります。 • 女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 • 敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	• 指導医が 50 名在籍しています. • 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(各年 4～5 回程度)しています。 • 臨床病理検討会(CPC)を定期的に開催(2021 年度実績 6 回)します。 • 地域参加型のカンファレンスは領域ごとに参加しています。 • ICLS を年 12 回開催していますので受講することができます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野において、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能です。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 日本内科学会地方会等に年回で 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	佐藤　博亮 【内科専攻医へのメッセージ】 順天堂大学は、合計 6 つの附属病院を有し、中でも浦安病院は千葉県の東葛南部地域の中心的な急性期基幹病院で、東京ディズニーランドからも近く、地域住民以外に国内外の旅行者も多く受診することが特徴で、救急医療にも力を入れております。また、千葉県内の協力病院と連携し、人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。 本プログラムでは、大学病院の内科系診療科が千葉県内の病院と連携し、質の高い内科医を育成するものです。さらに各人の希望に沿って、より専門性に特化した研修内容や高度先進医療だけでなく地域に密着したプライマリーケアを中心とした医療等を経験することもできます。 担当医として、外来診療や、入院から退院(初診・入院～退院・通院)まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になることを目指します。

	また、多くの専門医指導医が指導することで、単に内科医を養成するばかりでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスを提供する一員となることで、今後の医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目標にします。
指導医数＆各科専門医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 50 名，日本内科学会総合内科専門医 31 名 日本消化器病学会消化器専門医 9 名, 日本循環器学会循環器専門医 12 名, 日本内分泌学会専門医 2 名,日本腎臓病学会専門医 4 名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名，日本血液学会血液専門医 6 名, 日本神経学会神経内科専門医 7 名，日本リウマチ学会専門医 6 名, 日本感染症学会専門医 1 名，日本糖尿病学会専門医 5 名, 日本肝臓学会専門医 5 名，日本不整脈神殿学会 2 名ほか
外来・入院患者数	内科外来患者 18,033 名(1 ヶ月平均) 内科入院患者 9,716 名(延べ 1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、疾患群項目表にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	地域医療の発展に力添えをするべく、浦安市並びに周辺地域の住民の為に良質の医療を提供する事に重点を置いています。また基幹病院として、医師会との病診連携や病病連携を密にし、地域医療ネットワークの要となるべく努力をしております。
認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本透析医学会認定教育関連施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本アレルギー学会教育施設 日本感染症学会研修施設 暫定指導医認定日本神経学会認定教育施設 日本認知症学会専門医教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設　ほか

2）連携施設

◆順天堂大学医学部附属順天堂医院

認定基準 【整備基準 23】 1）専攻医の環境	• 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. • 研修に必要な図書室とインターネット環境があります. • 当院就業規則として労務環境が保障されています. • メンタルストレスに適切に対処する部署（本郷・お茶の水キャンパス健康管理室)があります. • ハラスメントの対応とし、「本郷・御茶ノ水キャンパス ハラスメント相談窓口」として人事課、健康管理室の 2 つの窓口を設置しています. • 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています. • 敷地内に院内保育所が用意されています.
認定基準 【整備基準 23】 2）専門研修プログラムの環境	•内科学会指導医は 218 名在籍しています. • 施設として全領域の専門研修委員会が設置されているほか、内科は、内科統括責任者を中心とした内科専門研修プログラム管理委員会およびプログラム管理者（内科領域教授、総合内科専門医・各領域指導医より構成)を中心に専門医研修プログラムの各種小委員会が設置しています．さらに、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. • 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修管理委員会を設置します. • 病院医療倫理委員会(11 回)・医療安全管理委員会（17 回）・感染対策講習会（2 回）医療にかかわる安全管理のための職員研修（20 回）を定期的に開催(2024 年度実績)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. • 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. • 病院 CPC(年間実績４回） を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. • 各内科における地域参加型のカンファレンス・地域講演会のほか、順天堂医学会学術集会（2024 年度実績年 2 回）医師会医学会等を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. • プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2024 年度開催実績 10 回：受講者 59 名）を受講する機会を与えており、そのための時間的余裕を与えます. • 日本専門医機構による施設実地調査については、当院のプログラム管理委員会、および臨床研修センターが対応します.

	• 特別連携施設の専門研修では、電話やメールでの面談・Web 会議システムなどにより指導医がその施設での研修指導を行います.
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	• カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. • 70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます. • 専門研修に必要な剖検（2022 年 27 体、2023 年 28 体、2024 年 24 体の実績）を行っています.
認定基準 【整備基準 23 4) 学術活動の環境	• 臨床研究に必要な図書室などを整備しています. • 順天堂大学臨床研究審査委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催(2024 年度実績 12 回)しています. •治験審査委員会を設置し，定期的に開催（2024 年度間実績 11 回）しています. • 医学系研究等倫理委員会を設置し、定期的に開催(2024 年度実績 11 回)しています. • 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 10 演題以上の学会発表をしています. • 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 10 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	鈴木祐介 【内科専攻医へのメッセージ】 順天堂大学は、合計 6 つの附属病院を有し、それぞれの地域の協力病院と連携し、人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。 大学病院として、質の高い内科医を育成するばかりでなく、各人の希望に沿って、より専門性に特化した研修内容や高度先進医療等を経験できます。一方で各附属病院や当院と関連のある教育病院において、より地域の特性に沿った医療を行うことも可能です。 主担当医として、外来診療や入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になることを目指します。 多くの専門医指導医からの指導を受けるとともに大学病院の特質となる学生教育の一端を担うことで、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスを提供する一員として、今後の医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目標にします。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 218 名，日本内科学会総合内科専門医 114 名， 日本消化器病学会専門医 37 名，日本肝臓学会専門医 19 名， 日本循環器学会専門医 40 名，日本内分泌学会専門医 10 名， 日本糖尿病学会専門医 26 名，日本腎臓学会専門医 13 名， 日本呼吸器会専門医 31 名，日本血液学会専門医 13 名， 日本神経学会専門医 35 名，日本アレルギー学会専門医 3 名， 日本リウマチ学会専門医 25 名，日本感染症学会専門医 3 名， 日本老年医学会専門医 4 名，日本救急医学会専門医名 3 名、

	消化器内視鏡学会専門医 36 名、がん薬物療法専門医 3 名
外来・入院患者数	内科外来患者 37,536 名（1 ヶ月平均）、内科入院患者 899 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 の症例を幅広く経験することができます．そのほかに大学病院ならでは希少な症例等幅広い症例を経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	一般診療・急性期医療だけでなく、超高齢者化社会に対応した地域に根ざした医療として、近郊の医療圏の病病・病診連携施設等で訪問診療や外来診療や離島医療なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設、 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本神経学会教育認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本老年医学会認定施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本輸血学会認定医制度指定施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度認定指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修指定施設 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本心血管インターベンション治療学会認定教育施設 日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設 日本アフェレシス学会教育認定施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本認知症学会専門医教育施設 日本脳卒中学会認定教育施設 など

◆順天堂大学医学部附属静岡病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度研修指定病院です。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(健康管理室)があります。 ・研修に必要な図書室と、図書室内と研修室はインターネット環境があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されており、また敷地内に院内保育所を保有しています。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が、18 名在籍しています。 ・医療安全、感染対策講習会を定期的に開催しています。 ・内科症例検討会を毎月開催しています。 ・CPC を定期的に開催しています。(年間 7 回) ・院内では救急科による、ICLS(年 3 回開催)、JMECC(年 1 回開催) 、ISLS(年 1 回開催)が開講され、受講できます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す 13 分野のうち、11 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診察しています。 ・専門研修に必要な剖検(2023 年度実績 10 体、2024 年度 10 体)
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・日本内科学会地方会に年回で 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	血液内科科長　髙野　弥奈 【内科専攻医へのメッセージ】 静岡県東部の医療機関が少ない地域で、幅広い疾患について、専門的な治療を行える日本有数の病院です。特にドクターヘリは年間 1000 人以上(国内 2-3 位)の患者さんを収容し、高度な治療を行っています。 学閥や上下関係もなく、各科のコミュニケーションは良好で、年間 20 名以上の研修医とともに、日々高い技術を習得できます。 また、学会発表や論文の執筆も盛んで、実績を積み重ねる良い機会です。
指導医数＆ 各科専門医数 （常勤医）	日本内科学会認定医(31 名)、日本内科学会総合内科専門医(14 名)、 日本リウマチ学会専門医(4 名)、日本消化器学会専門医(9 名)、 日本肝臓学会専門医(3 名)、日本消化器内視鏡学会専門医(8 名)、 日本ヘリコバクター学会ピロリ菌感染症認定医(1 名)、 日本呼吸器学会専門医(3 名)、日本血液学会専門医(5 名)、 日本腎臓学会専門医(2 名)、日本透析医学会専門医(2 名)、 日本糖尿病学会専門医(2 名)、日本循環器学会専門医(6 名)、 日本心血管インターベンション学会認定医(5 名)、日本神経学会専門医(4 名) 他
外来・入院患者数	内科外来患者　17,130 名(1 ケ月平均)、 内科入院患者　6,072 名(1 ケ月延数)

	※2024 年度実績
経験できる疾患群	慢性疾患から救急患者まで、幅広く経験ができます。特に、ドクターヘリで静岡県東部の各地より急性心筋梗塞、急性心不全、急性腎不全、大動脈乖離、脳梗塞、脳出血などの患者さんが運ばれてきます。 特に最近は高齢者が増加しており、認知症、パーキンソン病、等の患者さんも多数来院されます。
経験できる技術・技能	稀な疾患を含めて、研修手帳にある 13 領域、70 疾患群に症例を経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	静岡県東部は富士を含めると 120 万の人口を有し、伊豆半島、三島、沼津、御殿場、富士からも患者さんが来られます。いわば、静岡県東部の基幹病院となっています。診療連携は東部地域の各病院と緊密にとられています。
認定施設 （内科系）	日本リウマチ学会認定施設 日本リウマチ財団認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本血液学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本循環器学会研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 植え込み型除細動器・両心室ペースメーカー植込み認定施設 日本神経学会教育施設

◆順天堂大学医学部附属越谷病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度連携型研修指定病院である。 ・研修に必要なインターネット環境は施設内完備されている。 ・適切な労務環境が保障されている。 ・メンタル科があり、産業医も在籍し、当施設のみで適切に対処可能であり、ハラスメント委員会が整備されており、専攻医のメンタルストレスに適切に対処するため、基幹施設と連携ができている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室や更衣室等が配慮されている。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 5 名以上在籍している。 ・研修管理委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(医療 倫理、医療安全、感染対策)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンス（CC、CPC）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・多職種連携した地域参加型カンファランスにも参加可能である。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、8 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・学会発表においては、定期的に行われており、日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表が行われている。
指導責任者	頼高朝子 【内科専攻医へのメッセージ】 膠原病、神経難病を中心とした診療は県下 1 であり、集中した研修が行える。さらに総合診療科としての集中した研修も可能である。大学病院であるが指導医同士の距離感が近く多角的視野を持つことが可能である。
指導医数＆ 各科専門医数 （常勤医）	内科指導医 5 名 神経内科指導医 2 名、神経内科専門医 3 名、リウマチ専門医 2 名、消化器病専門医 2 名、肝臓病専門医 1 名、リハビリテーション専門医 1 名、認知症専門医 2 名
外来・入院患者数	内科外来患者 3800 名（1 ヶ月平均） 脳神経内科入院患者 7 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある 13 分野のうち 70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	・技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	地域包括ケア病棟をもち、地域と連携した診療が可能、地域で診断困難疾患の精査加療、難病の診療を臓器別のサブスペシャリテ領域および各科連携して研修することが可能である。 急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
認定施設（内科系）	日本神経学会教育関連施設

◆順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	•初期臨床研修制度協力型研修指定病院です. •研修に必要な図書室とインターネット環境があります. •非常勤医師として労務環境が保障されています. •メンタルストレスに適切に対処する部署（安全衛生管理室）があります. •人権小委員会が院内に整備されています.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	•指導医は20名在籍しています(下記). •内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. •医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024年度実績21回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •CPC（臨床-病理検討会）を定期的に開催（2024年度実績5回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます •地域参加型のカンファレンス（内科体験学習集談会，内科医会循環器研究会，内科医会呼吸器研究会，消化器病症例検討会、関節リウマチ講演会など；2024 年度実績 10 回以上）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	•カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 8 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています •専門研修に必要な剖検（2023 年度実績 4 体，2024 年度 4 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	•臨床研究に必要な図書室などを整備しています. •倫理委員会を設置し，定期的に開催（2024年度実績3回）しています. •治験委員会を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2024年度実績10回）しています. •日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	梁広石 【内科専攻医へのメッセージ】 主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります. 当院は城東地区の中心的な急性期病院であり、大学附属病院とで内科研修を行い、必要に応じた可塑性のある地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します
指導医数＆ 各科専門医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 20 名, 日本内科学会総合内科専門医9名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名,

	日本肝臓学会専門医 1 名 日本循環器学会循環器専門医4名, 日本糖尿病学会専門医2名, 日本腎臓病学会専門医4名, 日本呼吸器学会呼吸器専門医4名, 日本神経学会神経内科専門医6名, 日本リウマチ学会専門医 3 名, 日本感染症学会 1 名, 日本老年学会 1 名, 日本消化器内視鏡学会 3 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 11,660 名（1 ヶ月平均）入院患者 319 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の内、きわめて稀な疾患と血液疾患以外の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会教育関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 など

◆順天堂大学医学部附属練馬病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・当院は初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・垣根のない総合医局となっており、病院全体で人材を育てようとする風土のある教育的な雰囲気に満ち溢れています。 ・順天堂大学で初めて電子カルテを導入した病院であり、ペーパーレス、フィルムレスとなっています。また地域連携システムを導入し、順天堂医院や関連病院の患者情報を電子カルテで共有できます。 ・臨床研修医や若手医師向けの勉強会やカンファレンスが充実しており、医学生・臨床研修医・若手医師・指導医と屋根瓦教育を実践しております。 ・控室、個人ロッカー、PHS 等を準備し、貸与いたします。 ・敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 21 名在籍しています. ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、全教職員に受講を義務付けています。（教員は、医療安全講習会：年 4 回以上、感染対策講習会：年 2 回以上）またそのための時間的余裕を与えます。 ・毎週月曜日の 8：00～内科合同カンファレンスを開催し、各科の連携を図るとともに、専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を年 6 回開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・臨床研修医や若手医師向けの勉強会やカンファレンスが多数開催されます。（各科カンファレンス、各種勉強会、医学英語教育など）
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野において、総合内科、消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能です。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】 当院では、熱意あふれる指導医のもと、充実した研修を行う事ができます。各科指導医の教育力・熱意には定評があり、どの研修病院にも負ける事はありません。 本プログラムは初期臨床研修修了後に内科系診療科が協力病院と連携して，質の高い内科医を育成するものです。 当院のモットーでもある ①Patient First-何より患者さんに優しく、謙虚に ②目があったらまず笑顔-笑顔と挨拶、礼儀・接遇・マナー ③Enjoy training-皆さんが明るく楽しく働ける職場を創ります

	この 3 つをテーマに掲げ、練馬区及び日本の医療を担える医師を育成することを目的としています。
指導医数＆ 各科専門医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　21 名，日本内科学会総合内科専門医　12 名 日本消化器病学会消化器専門医　4 名， 日本循環器学会循環器専門医　12 名，日本糖尿病学会専門医　3 名， 日本腎臓病学会専門医　3 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医　5 名， 日本血液学会血液専門医　2 名，日本神経学会神経内科専門医　7 名， 日本リウマチ学会専門医　2 名，日本肝臓学会専門医　　3 名， 日本感染症学会　1 名　ほか
外来・入院患者数	内科外来患者　10,770 名（1 ヶ月平均） 内科入院患者　　402 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，疾患群項目表にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	地域医療支援病院として、地域医療機関との医療連携に努めている他、急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本透析医学会認定教育関連施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本神経学会認定教育施設 日本認知症学会専門医教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ほか

◆医療法人積仁会　島田総合病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・臨床研修協力施設です。 地域医療研修として年間約７０名の研修医受け入れをしています。 ・病院付属の保育所があります。 ・医師寮があります。 ・研修に必要なインターネット環境があります。（院内及び医師寮） ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務部人事課職員担当）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が４名在籍しています。（下記） ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、 基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催（2024 度実績医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・基幹病院等で定期的に開催される CPC 等への参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、呼吸器および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計１演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	嶋田一成 【内科専攻医へのメッセージ】 島田総合病院は、千葉県の香取海匝地域、銚子市において８５年の歴史があり、地域に密着した２次医療機関として医療を提供しています。 高齢化率が高い過疎の地域である銚子地域唯一の急性期病院として、サブアキュート、ポストアキュート、在宅医療の機能を有し、幅広く総合的な医療を提供し、地域の急性期から回復期までの医療を担っています。
指導医数＆ 各科専門医数 （常勤医）	・総合内科専門医 1 名 ・循環器専門医 2 名 ・消化器内視鏡専門医 1 名 ・消化器病専門医 1 名
外来・入院患者数	内科外来患者 200 名（1 ヶ月平均）内科入院患者 100 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を 36 経験することができます。

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅 広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
認定施設 （内科系）	・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ・腹部ステントグラフト実施施設 ・浅大腿動脈ステントグラフト実施施設 ・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術の実施基準による実施施設 ・日本脈管学会認定研修指定施設

◆亀田総合病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境 ・メンタルストレスに適切に対処するセルフケアサポートセンター ・悩みの相談をはじめ精神的なケアに専従するチャプレンや臨床心理士が常勤 ・ハラスメント委員会の整備 ・女性専攻医も安心して勤務できるように、男女別の更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室を整備 ・敷地に隣接した保育所および病児保育施設 ・病院併設の体育館・トレーニングジム ・その他、クラブ活動、サーフィン大会など
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・常にメールなどを通じて指導医、研修センターと連絡ができる環境。 ・連携施設での研修中であっても指導医と面談しプログラムの進捗状況の報告や 相談をすることができるよう ウェブ会議ができる環境
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその 省察とによって獲得されます。内科領域を 70 疾患群(経験すべき病態等を含む) に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します。この過 程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表的なものについ ては病歴要約や症例報告を記載します。 これらを通じて、遭遇することが稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習 によって適切な診療を行えるようにします。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	①内科系学術集会や企画に年 2 回以上参加する(必須)。※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会 CPC および内科系 subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨する。 ②経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行う。 ③クリニカルクエスチョンを見出し、臨床研究を行う。 ④内科学会に通じる基礎研究を行う。 以上を通じて、化学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。専攻医は学会発表あるいは論文発表を、筆頭者として 2 件以上行います。なお、専攻医が、社会人大学院など希望する場合でも、亀田総合病院内科専門医研修プ ログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。
指導責任者	中路 聡 【内科専攻医へのメッセージ】 亀田総合病院では、高いレベルで幅広く総合的な内科診療能力を修得するため の研修プログラムを準備しています。 これから内科専門医研修を開始するみなさんは、一人ひとりバックグラウンドが違 います。また、将来のビジョンも異なります。わたしたちには研修病院として長年の 実績があります。みなさんのニーズやスタイルに合わせ、かつ効率よく最短でプロ グラムを終了するための研修を提供いたします。「自由と責任」、「権利と義務」の もと、形式的ではないアウトカムを重視した内科医として研修を行ってみませんか？内科専門医研修を開始するみなさん、ぜひ亀田総合病院で一緒に働きましょう！
指導医数&	日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名 日本腎臓病学会専門医 6 名

各科専門医数 （常勤医）	日本消化器病学会消化器専門医 9 名 消化器内視鏡学会専門医 9 名 日本肝臓学会専門医 5 名 日本循環器学会循環器専門医 8 名 日本血液学会血液専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 7 名 臨床腫瘍学会 1 名 日本リウマチ学会専門医 2 名 日本感染症学会専門医 3 名 日本内分泌学会専門医 3 名 日本糖尿病学会専門医 5 名 日本救急医学会専門医 5 名 など
外来・入院患者数	外来患者数：72,460 名（年間 2023 年度） 入院患者数：21,556 名（年間 2023 年度）
経験できる疾患群	全 70 疾患群、200 症例以上を経験することを目標とします。内科領域研修を幅広く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性がありますの で、内科専門医に求められる知識・技能・態度修練プロセスを専門研修(専攻医) 年限ごとに設定している。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳参照。幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされ た、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに化学的根拠に基づいた幅の 広い診断・治療方針決定を指します。
経験できる地域医療・診療連携	病病・病診連携の両方での立場での研修を通じ、地域医療を幅広く多面的に学ぶ ことができます。
認定施設 （内科系）	・日本内科学会認定医制度における教育病院 ・日本病院総合診療医学会 認定施設 ・日本糖尿病学会認定教育施設 ・日本内分泌学会認定教育施設 ・日本甲状腺学会認定専門医施設 ・日本血液学会認定血液研修施設 ・日本がん治療認定医機構認定研修施設 ・日本緩和医療学会認定研修施設 ・日本透析医学会認定施設 ・日本高血圧学会専門医認定施設 ・日本急性血液浄化学会認定指定施設 ・日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡認定施設 ・日本消化器病学会認定施設 ・日本肝臓学会認定施設 ・日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 ・日本胆道学会認定指導医制度指導施設認定 ・日本消化器がん検診学会認定指導施設 ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設など

◆総合病院国保旭中央病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	•初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 •研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 •法人職員として労務環境が保障されています。 •メンタルストレスに適切に対処する部署（職員健康相談センター）があります。 •ハラスメント委員会が院内に設置されています。 •女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 •敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	•指導医が 30 名在籍しています。 •内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 •医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2020 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 24 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •研修施設群合同カンファレンス（予定）に定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •CPC を定期的に開催（2020 年度実績 16 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 •地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	•カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 •70 疾患群のうち全疾患群（少なくても 60 以上の疾患群）について研修できます。 •専門研修に必要な剖検（2020 年度実績 62 体、2019 年度実績 71 体、2018 年度実績 71 体、2017 年度実績 89 体、2016 年度実績 80 体、2015 年度実績 89 体、2014 年度実績 80 体、2013 年度 90 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	•臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 •倫理委員会を設置し、定期的に開催（2020 年度実績 6 回）しています。 •治験管理室を設置し、定期的に治験委員会を開催（2020 年度実績 8 回）しています。 •日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2020 年度実績 9 演題）をしています。
指導責任者	塩尻　俊明 【内科専攻医へのメッセージ】 •旭中央病院は、千葉県東部の中心的な基幹病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であり、高度先進医療だけでなく地域に根ざした最前線病院です。 •高度先進医療や難解な症例を担い、大学病院と同等の機能を有しています。地域がん診療連携拠点病院であり、また緩和ケア病棟を有していることから、高度先進医療を含めたがん

	患者への全人的医療を地域に提供しています。救命救急センターでは、年間約 40,000 人の患者が来院し、24 時間体制で一次から三次救急まですべての救急患者を受け入れています。内科病床数 300 床で年間約 8000 人を越える内科入院患者を誇ります。臨牀と病理の照合、結びつきを重視しており、内科の年間の剖検数は、2020 年度は 62 体に及び、毎月 CPC が開催されています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 30 名、日本内科学会総合内科専門医 25 名 日本消化器病学会消化器専門医 9 名、日本肝臓学会肝臓専門医 1 名、 日本循環器学会循環器専門医 5 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 3 名、 日本神経学会神経内科専門医 6 名、日本アレルギー学会専門医（内科）3 名、 日本リウマチ学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、 日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）専門医 2 名、 日本老年病学会専門医 1 名、日本感染症学会感染症専門医 1 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 13,642 名（1 ヶ月平均）　入院患者 681 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	J-Osler の疾患群項目表にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	J-Osler にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本神経学会認定准教育施設 日本糖尿病学会教育関連施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

◆江東病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	•初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. •研修に必要な図書室とインターネット環境があります. •常勤医師として労務環境が保障されています. •メンタルストレスに適切に対処する部署「心の相談室」（メンタルクリニックＤｒ担当）があります. •ハラスメントに対処する部署が院内に整備されています. •女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. •近隣に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	•指導医は 15 名在籍しています（別紙）. •内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：呼吸器内科内科部長），プログラム管理者（各科部長）；専門医研修プログラム準備委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. •基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します. •医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2021 年度実績 12 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •CPC を定期的に開催（2021 年度実績 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. •地域参加型のカンファレンス（江東区医師会医学会，江東地域救急搬送検会、江東フォーラム，腸疾患カンファレンス、JIM 等；2021 年度実績 5 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を積極的に勧め，そのための時間的余裕を与えます. •プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	•カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. •70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます. •専門研修に必要な剖検を行っています（2018 年度 3 体，2019 年度 2 体, 2020 年度 0 体）．この数年は新型コロナウイルスの蔓延のため剖検数は減少していますが、2019 年までは年間 3 体～10 体の剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	•臨床研究に必要な図書室などを整備しています. •倫理委員会を設置し，定期的に開催（2021 年度実績 6 回）しています. •治験コーディネート室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2021 年度実績 2 回）しています.

	•日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2021 年度実績 4 演題）をしています.
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】 江東病院は，東京都区東部医療圏の中心的な急性期病院であり，近隣医療圏にある連携施設とともに内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. 主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します.
指導医数＆ 各科専門医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 15 名，日本内科学会総合内科専門医 14 名、 日本消化器病学会消化器専門医 7 名，日本循環器学会循環器専門医 5 名， 日本腎臓病学会専門医 2 名，日本糖尿病学会専門医 1 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名，日本アレルギー学会専門医 1 名 ほか
外来・入院患者数	内科外来患者 8,766 名（1 ヶ月平均） 内科入院患者 265 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
認定施設 （内科系）	日本内科学会教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育認定施設 日本透析医学会認定施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 東京都脳卒中急性期医療機関 東京都感染症診療医療機関 日本ペインクリニック学会指定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本アフェレシス学会施設認定 日本高血圧学会専門医認定施設 など

◆東京都立東部地域病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度連携型研修指定病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・適切な労務環境が保障されている。 ・メンタルス トレスに適切に対処するため基幹施設と連携できる。 ・ハラスメント委員会 が整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室や更衣 室等が配慮されている。 ・ 敷地内外を問わず保育施設等が利用可能である。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 9 名在籍している(下記)。 ・研修管理委員会を設置して,施設内で 研修する専攻医の研修を管理し,基幹施設に設置されるプログラム管理委員 会と連携を図る。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(医療 倫理、医療安全、感染対策)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間 的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医 に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催 し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、 そのための時間的余裕を与える。
認定基準【整備基準 24】3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、7 の分野で定常的に専門研修が可 能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表を予定している。
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】 東部地域病院は東京都の城東地域の中心的な 急性期病院であり、墨東病院、大久保病院、順天堂大学医学部附属順天堂医院 を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行 い、内科専門医の育成を行います。
指導医数(常勤医)	日本内科学会総合内科専門医 2 名、日本消化器病学会消化器指導医 4 名、 日本肝臓学会暫定専門医・指導医 1 名、 日本心血管インターベンション治療学会指導医 2 名、日本循環器学会専門医 3 名、 日本呼吸器学会指導医 1 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 101,545 名 入院患者 61,279 名
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある 13 分野のうち 70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院、 日本消化器病学会認定施設、 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、 日本呼吸器学会認定施設、 日本消化器内視鏡学会指導施設、 日本臨床栄養代謝学会 NST 稼働施設認定施設、 日本肝臓学会認定施設、 日本大腸肛門病学会認定施設